

可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年11月5日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農業と福祉の今後一層の連携に向けて意見交換！ 農業・福祉関係機関等

可茂地域農福連携会議（事務局：農林事務所）は、10月15日に、各市町村、JAめぐみの、県農福連携推進センター、福祉団体、県関係機関等約30名の出席のもと、八百津町内で連携会議を開催した。

JAめぐみの八百津支店での室内検討では、農福連携の現状や今後のマッチングに向けて、農業、福祉それぞれの立場から実情を紹介、情報共有を行った。その後、農福連携を実践する「in Box 農園」のさつまいも出荷調製作業を視察し、出席者からは農業と福祉の関わり方への意識向上が伺えた。

農林事務所は、今回の会議をふまえ、県農福連携推進センターをはじめ関係機関とさらに連携し、農業と福祉双方にとって有意義なマッチングの実現に向けて支援を継続する。
(地域支援第一係)



【出荷調整作業の視察】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻ドローン直播栽培を終えて 水稻・可児市内

農業機械がはまり込まないよう細心の注意が必要となる泥状化した水田において、育苗・資材散布の労力軽減とコスト削減を図るため、可児市内では初めてとなる水稻のドローン直播が行われることとなり、農林事務所は実証ほを設置し、収穫までの支援を行った。

去る5月27日、農業用ドローンにより、水稻種子「あいちのかおり」を湛水播種した。発芽は良好で、生育期は順調に推移するものと思われたが、7～9月の渇水の影響を受け、分けつが不足し、十分な収量確保には至らなかった。しかし、整粒率は85%（不耕起V溝直播区44%）と、品質は申し分ない結果が得られた。農業者は、「収量や水の確保など課題は残ったが、初の取り組みで手応えを感じられた。条件の悪いほ場でも栽培が可能であることがわかり、来シーズンもスマート農機の活用と新技術を導入していく。」と力強く話されていた。

農林事務所は引き続き、農業者とともに課題解決と新技術の現地普及性の検証を行っていく。

(地域支援第二係)



【ドローンによる播種(5月)】

■3S栽培導入の機運高まる スマート農業技術研修会開催 夏秋トマト・美濃白川夏秋トマト部会

近年の温暖化により、標高400mの白川地域の夏秋トマトでも、栽培中に30℃を超える日が増え、土壌病害の青枯病が増加している。現状、土壌消毒で対応しているが、効果は限定的であり、3S栽培に関心を持つ生産者が増加している。3S栽培は、岐阜県が土壌病害対策として開発した不織布ポット・少量培地・養液栽培を組み合わせたスマート農業技術で、多収技術としても注目されている。

こうした中、農林事務所では、3S栽培の技術習得を目的に、10月20日、中山間農業研究所中津川支所でスマート農業技術研修会を開催。導入を検討中の生産者など5名が参加した。研修では、研究所の研究員から栽培システムの概要、設備設置、管理方法などの説明を受けた。土耕栽培との違いに戸惑いも見られたが、全員が積極的に質問するなど、有意義な研修となった。

農林事務所は今後も、夏秋トマトの安定生産技術の導入など、産地支援を継続する。

(園芸産地支援係)



【スマート農業技術研修会の様子】